

ベスト8届かず・・・

7月18日（水）八橋球場にて、ベスト8をかけて由利高校との試合が行われました。4回に1点差になったものの6回に2点を入れられ、残念ながら1-4で敗れました。

「明るさ」貫く

秋田修英 中泉翔選手



「焦っちゃだめだ」。由利に先制され、2点を追う秋田修英の四回。1死二、三塁の好機で打席に立った中泉翔選手（3年）は、自分に言い聞かせた。「外野に飛ばして、最低でも1点を入れる」。2球目、真ん中高めの変化球を振り抜く。犠飛で1点を返した。

「明るさ」は、春季大会で初戦敗退してから、チームの課題だった。松橋稜主将（同）は「ミスしても助け合って盛り上げられるように意識してきた。そこは発揮できた」と振り返る。鈴木寿宝監督は「ベンチに入れない3年生も含めて、最後まで明るく良いチームを作ってくれた」と感謝した。（石川春菜）

7月19日付 「朝日新聞」



7月16日付「秋田魁新報」



声を枯らしてエールを送る応援委員